

5 内視鏡室

[スタッフ構成]

看護系スタッフは、作年から内視鏡部門は手術室系統から外来系統へと組み替えとなりました（斉藤看護師長）。2013年度の中心看護スタッフとしては（敬称略）、高田、中平、南雲、藤田、手塚、山田、澤村らがその任にあたり、交代で4名配置を基本としての活動でありました。また適宜、外来看護部門からの臨時お手伝いもいただきました。消化管内視鏡医師常勤スタッフ（敬称略）としては、伊藤（副院長）および市川（消化器内科）が加わり、専修医として石井、益田が教育を受けつつ、実践活動に加わりました。

[診療概要／実績データ]

内視鏡室はいまだ旧病院3号棟の地下1階で、乏しいトイレ設備や老朽化した内視鏡システムといった難点を抱えつつの運営でありました。

しかしながら2013年度では、上部内視鏡 4267件（約600件増）、下部内視鏡 1537件（約130件増）と、前年より外来患者（2次健診／ドック含む）を中心に増加を認めました。

気管支鏡検査は111件と横ばい、ERCPは75件と微増、といったところでした。

治療内視鏡としては、外来／入院治療をあわせて、食道EMR/ESD 5件、胃EMR/ESD 25件、大腸EMR164件、大腸ESD 4件、EST 26件、などほぼ例年通りであります。

今後の命題としては、2012年度に保険収載となった大腸ESDへの取り組みの強化があげられます。安全性／根治性とのバランスも考慮して進んでいきたいと考えています。

[課題]

1. 新棟への移転前の老朽化したシステムおよび患者トイレ不足
2. 看護スタッフの人員不足／外来看護スタッフへの教育実践
3. 日本消化器内視鏡学会認定施設としての案件維持確保
4. 夜間／休日での緊急内視鏡のオンコール体制の維持
5. 新棟内視鏡センターへ向けた取り組み

（文責 内視鏡室長 有澤 淑人）